

P-A-7

乳酸菌抽出物（LFK）摂取が健常人の皮膚保湿能に及ぼす影響

The effect of oral intake of Lysed *Enterococcus faecalis* (LFK) on skin moisture condition.

○小林 裕美¹⁾, 曾和 順子¹⁾, 岡野 由利¹⁾, 石名 航¹⁾, 田宮 久詩¹⁾,
安田 滋¹⁾, 谷口 由紀¹⁾, 石井 正光¹⁾, 岡森 万理子²⁾, 嶋田 貴志²⁾

1) 大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学, 2) ニチニチ製薬株式会社

We investigated the effect of oral intake of Lysed *Enterococcus faecalis* FK-23 (LFK) on skin moisture condition of normal people using placebo-controlled double blind test. Transepidermal water loss (TEWL) and moisture content in the skin were measured at every three months. After one year of study, skin moisture content compared with baseline in LFK group showed tendency to increase more clearly than in placebo group. The questionnaire survey showed many of LFK group have become aware of the effectiveness.

【目的】

乳酸菌抽出物「LFK」は、*Enterococcus faecalis* FK-23 菌を酵素で処理した新しい乳酸菌素材で、これまでにアレルギー抑制効果や、痤瘡・酒さといった皮膚疾患に有用である事が報告されている。今回、LFKの継続摂取が健常人皮膚機能に与える影響を検討するため、二重盲検比較試験を行い、年間を通して皮膚の保湿能に及ぼす影響について、アンケート調査および計測を行い検討した。

【方法】

20代から50代までの健康な男女を無作為に2群に分け、LFK群(15名)はLFK0.5gを含有する顆粒食品を、placebo群(13名)はLFKをデキストリンに置き換えた顆粒食品を、1日2包ずつ、継続摂取した。摂取開始から3ヶ月おきに、温度・湿度を一定に保った部屋(20℃, 50%)で馴化したのち、経表皮水分蒸散量(TEWL)、皮表角層水分量の測定を行った。同時にアンケートを用い、摂取前後での皮膚状態の変化について調査した。

【結果】

摂取前と1年後の角層水分量を比較すると、placebo群に比してLFK群で増加する傾向が見られた。この傾向は、試験開始前における角層水分量が平均以下の群、すなわち、乾燥群においてより明らかであった。皮膚状態に関する摂取後のアンケートにて、皮膚の乾燥状態について「改善した」の回答は、placebo群で8人中3人(38%)、LFK群で11人中6人(55%)から得られた。また、「すべすべ感」のような皮膚表面状態の質感についての質問に対して、placebo群は9人中3人(33%)が改善、6人(67%)が変化なしと回答したが、LFK群で11人中8人(73%)が改善、3人(27%)が変化なしの回答であった。

【結論】

LFKの摂取が角層水分量の低値群すなわち乾燥傾向のある皮膚の保湿能を高めることを、皮膚計測結果は傾向として示し、アンケート調査からも、差をもって自覚されていることが判明した。本研究によりLFKの効果とともに、客観的な数値のみならず自覚症状を重視することも補完医療の評価において重要であることが示唆された。より長期の影響についても検討を加えていきたいと考えている。